

放課後等デイサービス事業所における自己評価

討議年月日： 令和 6年 3月 26日

公表：令和 6年 4月 6日

事業所名： なないろキッズたいない

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点・課題や改善すべき点など
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	0%	・整理整頓の工夫に努め、活動スペースを確保している。概ね適切。
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	0%	・配置基準以上の数を確保し、利用人数に応じてシフトを組んでいる。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	25%	0%	75%	・階段はバリアフリー化となっていないが、室内の整理整頓や使用の工夫により事故防止に努めている。 ・肢体不自由の利用者がいないため現状維持。
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	100%	0%	0%	・毎月の職員会議、日々のミーティングや振り返りの時間を確保し、目標の設定及び改善の方向について共通理解を図っている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	0%	・保護者アンケートを年1回実施し、評価結果を共有して業務改善に努めている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	0%	・ホームページに掲載している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	100%	0%	0%	・七穂会の評価会議に結果を公表し、業務改善につなげている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	87%	0%	13%	・管理者主催による研修や外部主催の講演会等に参加し、資質向上に努めている。 ・勤務形態による研修時間の確保の難しさについて工夫していく。
適切 な支 援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	・初期アセスメントシートを基盤に、子どもとの会話や保護者との情報交換を大切にしながら計画を作成している。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	0%	・保護者に作成していただいたアセスメントシートを基に、適応行動の状況把握に努めている。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	0%	・利用者が楽しみながらコミュニケーション能力を少しずつ高めることができるようなプログラムについて、事前検討を実施している。 ・準備や進行など役割分担し、全職員で運営している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	0%	・職員の創意工夫の他に、子どもたちの意見も取り入れている。 ・季節に応じた活動や地域イベントへの参加、ボランティアによるレクレーションなど、様々なプログラムを展開している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	0%	・平日は活動内容をパターン化し、生活リズムを整えさせたり、学習を支援したりしている。 ・休日や長期休暇は、生活支援、社会性の支援、自然との触れ合いに関わる多様な活動を実施している。(地域イベント、体操や水泳教室、買い物体験、調理、創作、読み聞かせ、川や公園遊び等)
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	0%	・実態に応じた個別支援計画に基づき、個別活動と集団活動を計画している。 ・子ども自身が自己選択できるような活動も計画している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	0%	・支援開始前に職員ミーティングを実施し、支援内容の共通理解や役割分担の確認をしている。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	0%	・支援終了後には、支援内容と子どもの様子を記録し、変容や気になったことなどを情報交換している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	0%	・支援内容と子どもの様子をサービス提供記録として蓄積し、共有化を図りながら支援の検証・改善につなげるよう努めている。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	0%	・定期的なモニタリングを実施し、サービス計画の妥当性について検討している。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	100%	0%	0%	・自立支援、生活の充実のための活動、創作活動、交流活動などをバランスよく組み合わせながら支援を行っている。	
20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	0%	・児童指導員の意見聴取も含め、管理者や児童発達支援管理者が参画している。	

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校の年間計画、月歴、下校時刻表を基に送迎を行っている。学校迎えの際に学校での様子を情報共有し、トラブル発生を未然に防ぐように努めている。 ・利用者の学級担任との面談を実施し、支援の向上に生かしている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・医療的ケアが必要な利用者はいないが、必要があれば専門機関との連携体制を整えていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、児童発達支援事業所や保育園等と情報共有し、相互理解に努めている。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、該当者はないが、移行の場合は支援内容等の情報を提供している。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・専門機関と連携し、支援の向上に努めている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	87%	13%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブとの交流は今のところないが、地域のイベントや公園、施設などを利用した活動で交流を図っている。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・管理者が参加している。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時に子どもの様子を口頭で伝え合ったり、連絡帳で伝え合ったりしている。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談の際に、子どもへの対応の仕方や療育方法について情報交換すように努めている。 ・必要な方に保護者会資料を配付した。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・契約の際に、契約書及び重要事項説明書を基に丁寧に説明をしている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談や送迎時に、悩みを聞いて相談に応じたり、助言したりしている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度はゲストを招き、参加者にも懇談してもらって保護者会を開催した。保護者同士の連携を支援する親子行事の計画を模索している。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・苦情対応窓口を設置して対応することとしている。苦情事案はなかったが、今後も利用者や保護者の意見に真摯に向き合っていく。 ・苦情があった場合は、正確な情報収集に基づき、迅速かつ適切に対応する。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の便りや個人宛の便りを発行したり、定期的にホームページを更新したりし、情報を発信している。
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・「個人情報の保護に関するガイドライン」を遵守し、文書の扱いやホームページ等の写真の掲載にも細心の注意を払っている。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい言葉で端的に説明したり、絵カードやジェスチャーを活用したりして支援している。子どもにも保護者にも受容的な態度で接し、温かい言葉掛けを常に心掛けている。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	86%	0%	14%	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所行事に招待する機会はないが、地域の方に読み聞かせや体操、水泳教室の講師をお願いしたり、地域イベントに積極的に参加したりしている。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルを作成し、職員に周知、共有化している。 ・必要に応じて、対応に沿った文書を保護者に配付している。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時対応の方法、避難経路や避難場所の確認について、子どもたちに分かりやすく指導し、定期的に訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・県主催の研修会に参加し、研修内容を全職員に伝達指導している。 ・七穂会の虐待防止委員会の計画に基づき、定期的に事業所内研修を実施している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・七穂会の規定を受け、事業所として必要がある場合はサービス計画に記載することとしている。 ・該当する利用者はいない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から詳細に聞き取って情報共有し、おやつ提供や調理実習等の際には、全職員で細心の注意を払っている。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議やミーティングでヒヤリハットの事例を情報共有し、事故の未然防止に努めている。 	